

## 神戸開港150年を迎えて

### 1. はじめに

1868年1月1日（慶応3年12月7日）に開港した神戸港は、平成29年1月1日に開港150年を迎えました。これまでの先人の知恵とたゆまぬ努力により、我が国を代表する国際貿易港として発展し、市民生活や地域経済にも大きく貢献しています。神戸のまちには港を通じて国内外から多くの人・物・情報が集まり、特色ある神戸文化を生み出してきました。開放的で自由な気風・風土からなるくらしの文化や、営々と受け継がれてきた高いものづくりの技術などが根付き、まちの資源や魅力となっています。

### 2. 神戸港のあらまし

神戸港は、自然条件に優れた天然の良港として、古代、中世より大陸や朝鮮半島との交易拠点として賑わいました。1868年の開港以降は、規模・機能などが強化され、日本を代表する国際貿易港に発展し、我が国の国民生活や産業基盤を支えてきました。

近年は、コンテナ物流への対応、ポートアイランドをはじめとする海と山の産業団地、住宅団地の整備による発展と平成7年の阪神・淡路大震災による甚大な被害からの復興、その後の国際コンテナ戦略港湾政策の推進など変化の激しい時代でした。

現在、神戸港は、世界の海運のメインルート上にあり、北米、欧州、豪州、アジア、中国航路など多くの国際定期航路網を持ち、世界各地の港と結ばれています。また、瀬戸内を中心とした西日本の各港との充実した内航航路や港直結の広域道

路ネットワークで国内各地と結ばれており、「集貨」、「創貨」、「競争力強化」を3本の柱とする国際コンテナ戦略港湾政策の取組みを着実に進めた結果、コンテナ取扱い貨物量は3年連続して増加するとともに、震災以降で最高の取扱量になるなど成果が上がりつつあります。

さらに、物流以外にも「神戸空港」の開港や「神戸-関空ベイ・シャトル」の就航により、海空陸の広域交流拠点を形成するとともに、市民にも親しまれる「みなと」となるよう、ウォーターフロントの整備やクルーズ客船の誘致、様々なイベント開催など賑わいづくりにも力を入れています。



写真-1 神戸港

### 3. 神戸開港150年記念事業

今年、開港150年を迎えた神戸港では、この記念すべき年を市民と共に祝い、市民の海、船、港への関心を深め、また、神戸港のさらなる発展のスタートとするため、様々な「神戸開港150年記念事業」を実施しています。

2月には国内外の28港の港湾管理者をお招きして「神戸国際港湾会議」を開催し、各港との連携を深めるとともに、ビジネスミーティングを实



神戸市長 久元 喜造

施いたしました。また、5月には秋篠宮文仁親王殿下をお迎えし、神戸開港150年記念式典を開催、7月には海フェスタ神戸を開催し、秋篠宮同妃両殿下をお迎えして記念式典を行うとともに、国内外の帆船と海技教育機構の練習船、計11隻が神戸港に一堂に集結する帆船フェスティバルや、打上げ数を約15,000発に大幅拡大した、みなとこうべ海上花火大会などを開催いたしました。今後も秋、冬にかけて「こうべ食の博覧会」、「港都 KOBE芸術祭」などの多彩なイベントを開催し、みなとの魅力を国内外に広く発信してまいります。

さらに、神戸開港150年にあわせて、みなと神戸を代表する観光スポットであるウォーターフロントの公園「メリケンパーク」を4月にリニューアルしました。再整備にあたっては、海と空に大きく開かれた立地特性を最大限に活かし、神戸の山、街、港、そして海を一望できるようにしました。整備後は、早朝から多くの方がジョギングや散策をされるなど市民生活に溶け込むとともに、神戸らしさを表す合言葉「BE KOBE」を立体化したモニュメントが国内外の観光客に人気を博しています。神戸都心の魅力あるウォーターフロン



写真-2 BE KOBE

ト空間として、様々な方にその魅力が伝わり、これまで以上に沢山の市民や観光客に親しまれています。

#### 4. 神戸港将来構想

開港150年の節目に、概ね30年先を見据えた神戸港が目指すべき戦略的な将来像を「神戸港将来構想」としてとりまとめました。本構想の検討にあたっては、神戸港の主たる機能である「港湾・産業」に加え、みなとまち神戸の活力と文化を創造する「にぎわい・都市」、さらに今後、一層、重要性が高まる「環境、安全」を対象として、神戸港の総合的な国際競争力強化を図ることとしています。神戸港が持続的な成長を続け、世界の中で輝き続けるため、未来に向けての決意を「挑戦・進化を続けるみなと神戸」として戦略的な取組みを継続してまいります。

#### 5. おわりに

神戸港は、社会経済的な役割のみならず、海外から様々な文化を取り入れ、進取の気風に富んだ市民性を育むなど神戸のまちの礎となってきました。今後も社会経済情勢などが大きく変化していく中であっても、適切に対応し、まちの礎としての役割を果たしていく必要があります。そのため、これまでの歴史を大切にしながら、革新的な市民性を受け継ぎ、今後とも進化を止めないみなどであり続けます。神戸開港150年を機に、「みなとの物流機能」、「みなとまちの魅力」、「みなとと市民とのつながり」の強化を図り、積極果敢に世界に挑戦し続けてまいります。